HONDA
The Power of Dreams

HONDA
The Power of Dreams

Hondaの安全運転普及活動報告書 2011

Safety for Everyone

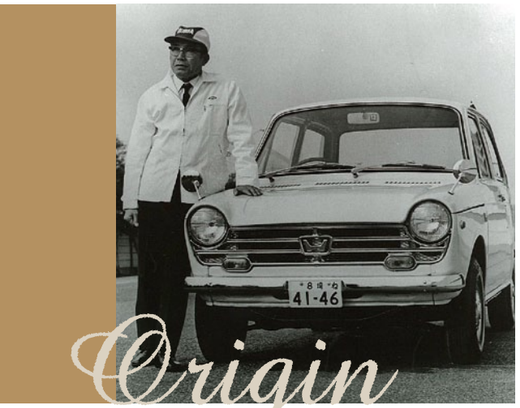
SAFETY-JAPAN

SAFETY-JAPAN

VEGETABLE OIL INK

本田技研工業株式会社　安全運転普及本部
〒107-8556　東京都港区南青山2-1-1　TEL.03-5412-1736　FAX.03-5412-1737

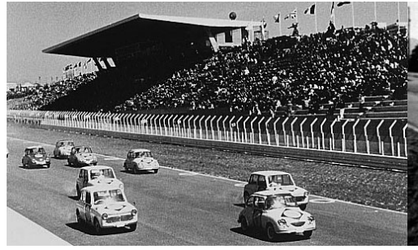
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022784



時代を先駆け
社会に伝えた安全の心

「ハードウエアとしての安全性を保証するだけでなく、
正しく安全に楽しい乗り方といったソフトウエアも加えて、
初めて商品になる」

「交通機関を扱っている企業としてどうあるべきか」
「バイクを、クルマを作り、売るだけでよいのか」
安全運転という言葉が、まだ世の中に知られるずっと以前の
今からおよそ 50 年前のこと。
創業者・本田宗一郎をはじめ社内では
バイクやクルマというパーソナルモビリティを
世の中に提供するメーカーの
果たすべき役割を真剣に考えていました。



1963 年、第 1 回日本グランプリ自動車レース大会
（写真提供：塩崎定夫氏）

1964 年、開所した鈴鹿安全運転講習所での
運転者向け講習の様子

1971 年、店頭アドバイスのための
安全運転普及指導員養成を開始

安全で安心して走れる場所を提供したい

若者がようやくの思いでバイクを手に入れたとしても、公道で無謀な運転をしては事故につながってしまう。走る場所も造らずに取締りだけを厳しくする、これではユーザーに申し訳ないと、宗一郎は感じていました。

同時に宗一郎が懸念していたのは、めまぐるしく変化していく日本の交通環境に運転技術が追いついていない点でした。当時の日本には運転技術を身につける場所も、機会も存在していなかったのです。

「バイクに乗っている若者に、安全で安心して走れる場所を提供したい」

1962 年、Honda は三重県鈴鹿市に国際規格のサーキット建設を決断。当時の会社規模からは考えられない大規模な事業でしたが、宗一郎の計画には一つのイメージがありました。

「サーキットを作るなら、ただ走れるだけではダメだ。より安全性が高く、しかも走ることによって知らず知らずのうちに運転技術を磨けるような、世界に通用するものにしろ」

レイアウトは世界的に類のないものとなり、カーブの数は 18 個、平らな場所がほとんどないアップダウンの多いコースは、スピードだけでなく、走る者にテクニックを要求し、走ることで自然と運転技術が身につく難易度が高いコースをめざしました。こうして宗一郎の哲学に沿ってつくられたサーキットは「スズカテクニカルコース（現、鈴鹿サーキット）」と名づけられたのです。

「メーカーの責任」、安全運転普及本部設立

「白バイ隊の殉職事故を防ぐためにはどうすればよいのだろうか」

ある日、中部管区の白バイ隊長から Honda に寄せられた相談は切実なものでした。

相談をきっかけに、1964 年、鈴鹿安全運転講習所（現、鈴鹿サーキット交通教育センター）を開設し、第 1 号の受講者として交通警察官の訓練をスタート。事故の大半は未熟な運転技術が原因であったため、実際の交通環境を想定した基礎トレーニングを実践。その結果、白バイ隊の殉職者ゼロの達成に寄与しました。

一方で、日本が本格的なモータリゼーションの時代に突入していた 1970 年、交通事故死者数は 1 万 6765 人と史上最悪を記録。Honda は、全国で Honda 車に乗っていただいているお客様、ひいてはすべてのクルマ・バイクに乗る人たちの安全に対し、モビリティを提供しているメーカーとして責任をもって取り組む必要があると考えた西田通弘（当時専務）は、宗一郎と副社長の藤澤武夫にこう切り出しました。

「耐久消費財であるクルマは、ハードウエアとしての安全性を保証するだけでなく、使用者に対しても、正しく安全に楽しい乗り方といったソフトウエアも加えて、初めて商品になる。すなわち、ソフトウエアも商品である」

西田は、製品販売と安全教育の相互関係を強く主張するとともに、すでに 1964 年から官公庁や企業を対象に実施していたバイクの安全教育を一般ユーザーまで拡大し、さらにクルマにも適用するべきだと訴えたのです。

提案は即決され、わずか 20 日後の 1970 年 10 月に安全運転普及本部（以下、安運本部）を発足。参考となる組織がどこにもないなかで、驚異的ともいえるスピードで進められたのは、

1971 年 3 月、Honda の安全運転普及活動の基本姿勢を全国紙の全面広告で発信した

一日でも早く設立することが、一人でも多くの命を救うことにつながるという信念からでした。

技術が進んでも、最後の決め手は「人」である

1971 年、Honda は全社を挙げて安全運転普及に取り組む姿勢を社会に伝えるため、「安全運転普及のための活動」と題した新聞広告を発表しました。広告には活動に対する基本姿勢として、世界初の安全運転普及指導員の養成、安全ドライビングクラブの結成促進と支援等、11 の宣言が盛り込まれていました。

あわせて紙面には、アポロ 13 号の奇跡の生還を NASA のコントロールルームで指揮した、当時 32 歳のルーニイさんと宗一郎の対話を掲載。

「機械がいかに進歩しようとも、主役は使う人である」という宗一郎の考えを端的に表現するエピソードとして紹介され、「使う人とつくる人との間に温かい心が触れ合うことを基本姿勢として今後の企業活動を実践する」という Honda の企業姿勢への想いがこめられていました。

「あの帰還の成功は、機械による自動制御に任せるのではなく、要所要所は人間がコントロールしたからだという。ルーニイさんは飛行士たちと長く生活をともにしたことで、彼らのクセや考えていることを、声を聞くだけで理解できたそうだ。（中略）人間の心と心の通い合いは、機械がいかに進歩しようとついに到達できない世界である」

安運本部の活動が明確化され、その目的と重要性は瞬く間に全国の販売会社のスタッフに広がり、活動に賛同した多くのスタッフが安全運転普及指導員の資格を取得し始めました。設立からわずか 2 年後の 1972 年には、本部から認定を受けた安全運転普及指導員は、8000 人を超え、安全運転講習会参加者も 6 万人以上と、活動は全国的な広がりをみせ、「安全運転」は着実に社会に浸透していったのです。そして**「血の通う言葉と心で、お客様を事故から守ろう」**という想いのもと、団結して店頭活動を担った指導員の存在が、現在まで続く**「人から人への手渡しの安全」**の原動力となっているのです。

「参加体験型の実践教育」の普及

Honda は店頭での「手渡しの安全」活動の推進とともに、運転者一人ひとりの運転技術向上を目指すための準備も着々と進めていました。

白バイ隊の運転技術訓練を通じて得た指導ノウハウを活用し、すでに官公庁や一般企業向けの安全運転講習を開催していたが、安全運転をより多くの人に伝えていくため、1978 年には一般ライダーに向けた「Honda モーターサイクリスト・スクール（HMS）」をスタート。このスクールは免許取得後にバイクを安全に運転するための基本技術を学ぶ、いわばライダーの登竜門的なスクールであり、鈴鹿・埼玉・福岡の交通教育センターや、代理店・販売店が主催する形で行われました。1991 年には、クルマの運転者向けに「Honda ドライビング・スクール（HDS）」を開始。両スクールともに実車を使い、危険予測能力を身につける Honda 独自の安全運転プログラムは、**「参加体験型の実践教育」**のコンセプトに則って構築されたものです。その伝承者としての役割を担っているのが交通教育センターです。

1974 年、鈴鹿サーキットで行われたセーフティークラブミーティング

1982 年、セーフティアップ作戦を実施

1994 年、四輪販売会社でセーフティコーディネーターがスタート

時代とともに進化するクルマの「ハード面」での安全性と同時に、運転者の技術という「ソフト面」での安全性向上の場として、鈴鹿に初めて設立された交通教育センターは、現在まで全国 7 カ所に設置され、動画 KYT（危険予測トレーニング）などの座学をはじめ、女性や高齢者向け、さらにはエコ＆セーフティドライブなど、お客様や社会のニーズに即応した幅広い教育プログラムを展開しています。

しかし、安全運転教育が進むなか、一つの大きな壁がありました。

「どうすれば事故の危険を安全に体験して学べるか」

実車を使った講習には限界があり、路上で事故を実体験させるのは不可能だったからです。

そこで Honda は**「危険を安全に体験させる」**ため、1988 年から交通事故を研究し、危険をよりリアルに体験できる独自のシミュレーター開発にチャレンジ。試行錯誤の結果、1993 年に「Honda ライディングシミュレーター（二輪車）」が完成しました。その後も、様々な状況下での危険場面を学べる四輪シミュレーターや交通ルールやマナーを楽しく学べる自転車シミュレーターなど、幅広く開発し続け、より効果的に実際の交通環境における危険を安全に体験できる教育機器の開発は今日まで続いています。

「血の通う言葉と心で、お客様を事故から守ろう」

そして、すべての人の安全をめざして

安運本部設立の半年後、宗一郎は社報で以下のように語りました。

「安全運転普及本部（中略）の活動内容は、単に運転のテクニックを広めるというような、表面的なものではありません。あくまでも『人間性の尊重』が基本の精神です。メーカーである Honda、売る販売店、そして使うお客様、この三者が絶えずコミュニケーションを保つなかから、お互いが協力して人間性に叶った豊かなカーライフを作ってゆく事が目的です」

創業者から発せられたこの考え方は、40 年以上経った現在まで受け継がれています。

バイクやクルマの運転者教育を目的として始まった安全運転普及活動は、現在、ライダー・ドライバーだけでなく、歩行者、自転車利用者など、交通社会に参加するすべての人を対象とした活動へと広がっています。全国 7 カ所の「交通教育センター」をはじめ、熊本を皮切りに栃木、埼玉、浜松、鈴鹿の各製作所に設置した「地区普及ブロック」による地域に根ざした活動、そして、Honda の考えにご賛同いただき、全国各地で交通安全を啓発する多くの指導者が活躍している「地域が主体となった交通安全普及活動」。

Honda はクルマやバイクのハード面の安全性向上に全力で取り組んでいくとともに、これからも子どもから高齢者まで生涯にわたった交通安全啓発活動というソフト面に対し、地域社会と一体となって取り組んでいきます。

Safety for Everyone――

モビリティ社会に参加するすべての人が安全であるように、これからも交通安全の普及に努めます。

現在、幼児・小学生を対象に開催している交通安全教室の様子

Safety for Everyone

交通社会に参加する、すべての人の安全をめざして

お客様に「安全な製品（ハード）をお渡しする」とともに、「安全に運転していただくための知識や技術（ソフト）をお伝えする」ことで、はじめて安全な商品をお渡ししたと言えると考え、安全運転普及活動を「社会的責任として行う企業活動」と位置づけ、取り組んできました。

いま、Honda がめざすのは「すべての人の安全」。

運転者だけでなく、歩行者、自転車利用者など、交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい。そのために、子どもから高齢者まで各年代に応じた交通安全啓発活動を地域社会と一体となって進めることが必要と考えています。

■ 安全運転普及本部の活動の三本柱

すべての人に安全を届けたいから、人づくり、場づくり、ソフトウェアの開発に取り組んでいます。

人づくり

交通安全を伝える指導者を養成しています。

効果的に交通安全教育を行い、活動を広げるためには、それを実践する指導者が必要不可欠です。そのため、Honda は手渡しの安全の担い手である指導者の養成に積極的に取り組んでいます。また、活動に賛同していただける企業・地域・自動車教習所などの方々へ、要望に応じて指導ノウハウを提供するなど、指導者養成を支援しています。

場づくり

交通安全を考え、学ぶための「場」と「機会」を提供しています。

交通ルールやマナー、安全運転について日常的に考え、学ぶための「場」と「機会」をお客様や地域の方々へ提供しています。例えば、親子で学べる交通安全教室や危険を安全に体験していただく参加体験型のスクール、受講者同士の話し合いの中から自分の交通行動を振り返る講習など、様々な学びの「場」と「機会」を創出しています。

ソフトウェアの開発

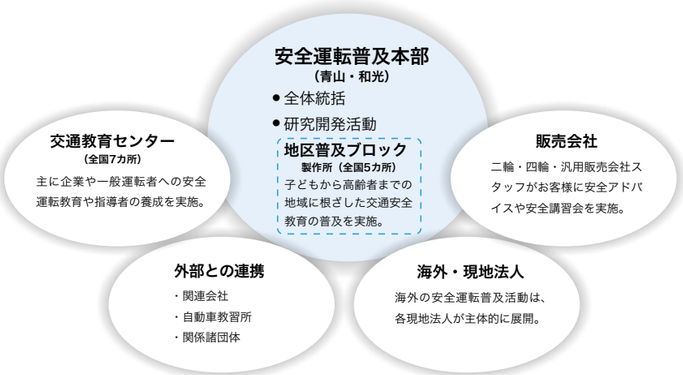
学習効果を高めるための「教育プログラムや教育機器」を開発しています。

安全教育の現場でご活用いただける教育プログラムや教育機器等、「ソフトウェアの開発」も安全運転普及本部の重要な活動の一つです。本人の気づきを促す各種交通安全教育プログラムや、危険を安全に体験いただける二輪・四輪・自転車の各種シミュレーターなど教育機器の開発に力を入れています。

■ 安全運転普及本部の活動体制

できるだけ多くの人に
安全教育に参加してほしいから、
活動の場を広げています。

安全運転普及本部を中心に、各年代に応じたきめ細やかな安全運転普及活動が行えるよう、活動体制を整えています。それぞれの活動拠点に、役割に応じた専任のインストラクターやスタッフが配置されており、皆様に交通安全教育を提供したり、関係諸団体と連携した交通安全活動に取り組んでいます。



ごあいさつ

本田技研工業株式会社　取締役専務執行役員
安全運転普及本部本部長
大山 龍寛

日頃は Honda の安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り誠にありがとうございます。今年は東日本大震災が発生し、数多くの方が被災されましたことを心よりお見舞い申し上げます。また震災影響が国民生活、企業活動など広範に及ぶ中、皆様のご理解を頂きながら引き続き安全運転普及活動を展開することができました。これも偏に多くの方々のお力添えによるものと、この場をお借りし、改めまして御礼を申し上げます。

さて、今回の大震災を機に改めて安心・安全の重要性がクローズアップされました。安心・安全な社会の構築にはクルマのような道具から道路や発電所といったインフラまで様々なハードウエアとそれを適切に機能させるためのソフトウエア、そしてそれらを管理あるいは利用する人の「意識」が大きな鍵を握っていると痛感いたしました。

今年、政府は「平成 27 年までに交通事故による 24 時間死者数を 3 千人以下、死傷者数を 70 万人以下」という目標を掲げ、第 9 次交通安全基本計画をスタートさせました。

この計画を作成する際に内閣府が行った交通安全等に関するアンケート調査によりますと、大多数の人は交通事故ゼロあるいは大幅に減少させることを望んでいるものの、一方で交通事故は「ある程度生じるのはやむを得ず、減少できなくても仕方がない」と回答した人の割合が前回調査の 4.1%から 11.2%に増加との憂慮すべき報告もあり、ここ近年順調に交通事故を減少させてきた日本の、まさに人の「意識」をどう変えるかが目標達成への大きなポイントの一つではないかと思います。

しかし人の意識を変え、行動を変えるのは、それほど容易なことではありません。

Honda はメーカーとして進化させた安全技術をクルマやバイクに搭載し、広くお客様に提供することに努める一方、正しい使い方や知識はもちろん、安全な交通参加者であるための意識や行動の変容を促すのが教育であると信じ、これまで 41 年間活動を続けてまいりました。昨年は事故死者数が 4863 人と減少しましたが、これも官民一体となったハード・ソフト両面での活動の賜物であると言えます。

交通安全を学ぶ人たちも年齢や環境等によって心身ともに影響を受けます。Honda は交通安全教育を生涯教育の一つととらえ、交通教育センターや販売店の店頭で行う運転者教育に加え、ここ最近は特に幼児から高齢者まで、地域に密着して地元の警察、自治体等の皆様と連携しつつ、ライフステージに応じた交通安全教育の普及や自転車シミュレーターのようなシミュレーション技術を活用した教育機器による新しい教育手法の提案にも取り組んで参りました。

教育により「気づき」が生まれ、「意識」が変わり、「行動」が変われば「社会」が変わる。

交通社会に共存するすべての人の安全をめざし、Honda はこれからも、より安全性の高い製品の提供とともに、人と人との信頼関係をベースに、地道ではありますが「手渡し」の交通安全普及活動を進化させながら継続して参りたいと思います。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともに、変わらぬご理解、ご支援をよろしくお願い申しあげます。

2011年の活動報告

安全・安心な交通社会の実現に向けて

安全運転普及本部 事務局長　千葉 英雄

2011 年の重点テーマ

Honda が取り組む安全運転普及活動は、今年で 42 年目を迎えました。この間、交通社会を取り巻く環境変化に即応するとともに、運転者のみならず幼児から高齢者を含め「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」と願い活動し、今年は昨年に引き続き**「地域に根ざした普及活動の定着化」**と**「社会に求められるノウハウの創出と発信」**を重点テーマとして掲げ、活動を展開して参りました。

1.「地域に根ざした普及活動の定着化」

■ Honda の教育ノウハウを全国へ

熊本を皮切りに、栃木、埼玉、浜松、鈴鹿の各製作所に設置した「地区普及ブロック」による地域普及活動は 4 年目を迎え、交通安全を学ぶ機会と教育ノウハウを全国に拡げるための活動拠点として、定着して参りました。その結果、地域が主体となった交通安全普及活動を担う指導者延べ約 8000 人を養成するとともに、その指導者によって今年だけで Honda のノウハウを活用しながら、全国 321 市区町村、約 40 万人に安全をお伝えすることができました。交通安全意識は幼少期から身につけるほど効果的であることから、特に今年は幼児・小学生向け安全教育に力を入れ、あやとりぃシリーズなどのツールの積極的活用により、今年だけで約 30 万人の子どもたちに交通安全教育を行うことができました。今後も全国の多くの子どもたちに安全をお伝えできるよう地域指導者と連携して参ります。

一昨年から始まった Honda 関連企業の従業員で構成される「Honda パートナーシップ・インストラクター制度」では、36 社 67 名の第一期生インストラクターが各社周辺地域で参加体験型の親子交通安全教室など、積極的な普及活動を展開しています。そして今年新たに 21 社 33 名の第二期生インストラクターが加わり、100 名の関連企業指導者が誕生し、活動の継続と拡大が期待されています。

また、全国 36 校の教習所と連携した交通安全普及活動では、二輪車安全運転実技講習や、自転車シミュレーターを活用した中・高生に向けた自転車教室、一般向け各種交通安全イベントを開催し、地域から期待される活動として定着して参りました。

Honda 内では全国の製作所の従業員による「工場インストラクター制度」を再構築し、新規インストラクターの養成や再教育を通じて、製作所内外の交通安全に向けた取り組みが活発化しています。

お客様と直接、接する販売拠点では地域住民参加型の各種交通安全イベントや東京都内販売拠点周辺での街頭立唱指導など、今年もお客様に安全を手渡しする様々な活動を展開して参りました。「血の通う言葉と心で、お客様を事故から守ろう」という店頭活動の原点に立ち返り、今後も地域のお客様の期待に応えられる活動に取り組んで参ります。

全国 7 カ所の交通教育センターでは、企業や一般の方々を対象とした参加体験型の実践教育に取り組んで参りました。個人向けスクールでの安全運転スキル向上とともに、企業向け研修では、動画 KYT など新たな教育ツールを活用するなど、企業の指導者育成や従業員教育として多くの方々から好評を得ています。

このような交通安全に対する情熱を持つ全国の指導者の皆様によって、それぞれの地域社会から高い評価と信頼を得て交通安全の輪が確実に広がり、2011 年度末までに 32 都道府県で、動員数約 57 万人を超える活動へと拡がり、一定の定着が見込まれています。あらためて、Honda の安全思想にご賛同いただいた全国各地の指導者の皆様に、感謝とお礼を申し上げます。

地域に根ざした活動の要は、地域で活躍されている多くの指導者の皆様です。そして、地域交通安全のために献身的に取り組む姿に、あらためて敬意を表するとともに、Honda は地域指導者に対して、今後も交通安全教育ノウハウを提供し、地域内住民のより一層の交通安全意識の向上をめざし、ともに取り組んで参ります。

2.「社会に求められるノウハウの創出と発信」

■ シミュレーション技術で新分野へチャレンジ

現在、日本では脳機能障害などにより多くの方々が社会復帰をめざしてリハビリに励んでいます。そのうち約半数の方が、以前はクルマの運転をしており、その 2/3 の方は「もう一度クルマを運転したい」と考えているというデータがあります。一方で、リハビリ現場で指導する、医師等の医療関係者からは「何を基準に運転可否判断をすればよいのか」と不安視する声が多く寄せられています。

こうした声に耳を傾け、長年蓄積してきたシミュレーション技術を応用し、運転可否判断をサポートする新たな機器の開発にチャレンジし、既に一部のリハビリセンターで検証実験を行い、活用できる一定の目処が立ちました。これにより、一定の判断基準を持って運転に関するリハビリ指導が可能となるサポート機器として、多くの期待が寄せられています。「もう一度クルマに乗りたい」「いつまでもクルマに乗り続けていたい」と希望する方々をサポートし、いつまでも楽しく安全に運転していただけることが Honda の願いでもあります。

今後もこうした社会の期待に応えられるような新たなノウハウの開発をはじめ、地域の指導者が必要とする使いやすい教育ツールや、交通教育センターでの活用を前提にハードを意識した教育ノウハウ、ツールなどの開発にも継続して取り組んで参ります。

■ 海外に向けたマザー機能の発揮

近年、日本の交通事故死者数は 5000 人を下回りましたが、世界の交通事故死者数は、インドで約 13 万人、ベトナムで 1 万人以上と、特にアジア諸国における交通事故死者数が社会問題化しています。こうした状況を我々は看過することはできません。

Honda は、かねてより海外での活動も活発に取り組んで参りましたが、活動を上回るスピードで交通事情が急速に変化しているのが現状です。

安全運転普及本部は、長年取り組んできた安全運転教育のパイオニアとしての自覚を持って世界のマザー機能を発揮し、各国の実情に即した展開を加速しています。具体的には、二輪車市場が急激に拡大するインド、ベトナム、インドネシアを最重点地域とし、各国の現地法人と連携しながら、長期ビジョンと展開計画を策定中です。

海外展開にあたっては文化や交通事情の違いによって、日本流のやり方をそのまま流用することができないことから日本で教育手法の有効性について試行錯誤を繰り返し、ノウハウを蓄積していくことが重要であり、今後もアジアを意識した国内の活動を加速して参ります。

2012 年に向けて

■地域に根ざした普及活動の定着と自立

第 9 次交通安全基本計画では「平成 27 年迄に事故死者数を 3000 人以下にする」という目標が掲げられ、「地域の実情に即した身近な活動の推進」「交通安全教育指導者の養成と確保」「効果的な教育手法の開発と導入」などが謳われております。まさに私たちの活動方針そのものであり、今まで以上に官民一体となった重層的な活動や地域で活躍する指導者とより一層連携した「地域に根ざした活動」を全国的に拡大するとともに、地域が主体となって活動できるよう定着と自立をめざし、今後も積極的に展開して参ります。

■ Honda らしい先進性・独自性ある ノウハウの開発と発信

政府が掲げる目標を達成するには、交通教育、啓蒙活動の更なる進展が必要です。現状の活動を継続するのみではなく、現況の交通事情や潜在的な諸課題に対する先を見据えた対応が求められます。Honda は長年にわたり蓄積して参りました交通安全教育ノウハウを活かし、こうした諸課題に果敢にチャレンジして参ります。

交通社会の環境変化を的確に捉え、社会のニーズと時代に合致した価値創造にチャレンジし続けること。それが Honda の DNA であり、既存の活動に満足することなく、Honda らしい新たな交通安全教育ノウハウの研究と開発を重ね、交通社会に発信・提供することが交通社会における我々の使命であると認識し、より安全・安心な交通社会の実現に寄与し、喜びの輪、笑顔の輪の最大化をめざして参ります。

幼児・小学生

「止まる」「観る」という基本行動を身につけてもらうために

Hondaは、幼児期から発達段階に合わせた交通安全教育が必要であると考え、交通行動の基本である「止まる」「観る(観察する)」を子どもたちに身につけてもらうための活動を展開しています。さらに、こうしたノウハウを子どもたちの安全教育に携わる保護者や学校、地域の指導者にお伝えする指導者養成活動に力を入れ、交通安全の普及に取り組んでいます。

「あやとりぃ」の指導者研修を展開

交通安全教育プログラム「あやとりぃ」は、子どもの成長に応じ3つのプログラムがあります(P27参照)。これらのプログラムは、幼稚園・保育園、小学校や地域の指導者を中心に活用されており、今年は全国各地で約7200人(10月末現在)の子どもたちに参加いただきました。

「あやとりぃ ひよこ編」はイラストやクイズなどを通して、幼児に「止まる」「観る」の重要性をわかりやすく伝えることができると、地域の指導者に好評をいただいています。さらに、「あやとりぃ」をより多くの地域に普及させるため、地区普及ブロックが全国各地の幼稚園教諭や保育士、地域の交通安全指導員に指導方法やノウハウなどをお伝えし、指導者の養成に力を入れています。今年4月には浜松普及ブロックが財団法人静岡県交通安全協会の新任の交通安全指導員、5月には埼玉普及ブロックが足立区職員、交通指導員の方々を対象に「あやとりぃ」の指導者研修を実施しました。今年は、全国34都府県178市区町村約1900人(10月末現在)の指導者に「あやとりぃ」のノウハウをお伝えしています。

山形県東根市の交通安全専門指導員による神町幼稚園での「あやとりぃ ひよこ編」

足立区職員、交通指導員を対象に開催されたあやとりぃ研修(埼玉普及ブロック)

Honda関連企業による交通安全活動

Hondaは2008年より関連企業の中で交通安全指導を担う専任のインストラクターを養成する活動に力を入れています。そのHonda関連企業では、自治体や関係諸団体と協力して、親子で楽しく交通安全を学べる「親子交通安全教室」を、地区普及ブロックのサポートを受けながら開催しています。その目的は、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と、子どもの行動特性を理解してもらうことです。飛び出しなど子どもに多い事故事例を再現したり、クルマの運転席から見た死角を子ども自身の目で見て確かめる体験など、親子に気づきを促すプログラムを実施しています。九州地区の「熊輪会※」に続き、今年は埼玉地区で「Honda関連企業災害防止協議会※」、鈴鹿地区で「七日会※」が新たに実施するなど、これまでに11の地域で、関連企業近隣の親子を対象とした交通安全教室を開催しました。

また、静岡県が主催する「ふじのくに交通安全県民フェア」では「さつき会※」のインストラクターが来場した子どもたちにHonda自転車シミュレーター(P27参照)による指導を行いました。

埼玉県狭山地区で開催されたHonda関連企業災害防止協議会インストラクターによる親子交通安全教室

三重県鈴鹿地区で開催された七日会インストラクターによる親子交通安全教室

※「Honda関連企業災害防止協議会」「さつき会」「七日会」「熊輪会」ともに、Honda関連企業からなる組織。

多くの子どもたちが交通安全に親しむ機会を提供

Hondaは、より多くの子どもたちに交通ルールやマナーの大切さを知ってもらうため、イベントでの啓発活動にも取り組んでいます。今年8月にはHondaウエルカムプラザ青山で、「ASIMOといっしょに親子で学ぼう!交通安全教室」を開催しました。2日間で98名の親子が参加。4歳から小学2年生には、「あやとりぃ ひよこ編」を活用し、インストラクターが道路を渡る時の3つの約束として「止まる」「手をあげる」「右、左、右を観る」など、基本的な交通ルールを説明。その後、模擬の信号機と横断歩道を使って、学んだ内容を子どもたち一人ひとりが実践しました。小学2～6年生対象の「Honda自転車シミュレーター」教室では、初めに一時停止や左右後方確認の重要性などを説明。その後、子どもたちがシミュレーターを体験しながら、危険予測トレーニングに取り組みました。

また、イベント会場や交通教育センターで開催している「親子でバイクを楽しむ会」では保護者が先生となって、子どもにバイクを通じて交通ルールやマナーの大切さを伝えています。保護者の方からは、親子の絆を深めることができると評価を得ています。

このほか、「Honda交通安全かるた」も、かるたを通じて子どもに楽しく遊びながら交通ルールを伝える教育プログラムとして、数多くの地域イベントなどで活用されています。

模擬の横断歩道を使って、「止まる」「手をあげる」「右、左、右を観る」を実践(Hondaウエルカムプラザ青山)

自転車シミュレーターでインストラクターのアドバイスを聞きながら、危険予測のポイントを学ぶ(Hondaウエルカムプラザ青山)

中学・高校・大学生

交通ルールの大切さに気づいてもらい行動変容を促すために

自転車・二輪車など新しい交通手段で通学を始める中学・高校生年代には、交通安全を自分の問題として考えてもらうことで、安全な交通行動の実践へ導くことが大切です。Honda は、生徒に交通ルールを守ることの大切さや、危険予測の重要性に気づいてもらうことで、自ら行動変容を促す活動に取り組んでいます。

事故事例をもとに安全を考える

自転車乗用中に最も事故に遭いやすいのは 16 ～ 24 歳の年代であり、次に多いのは 15 歳以下です。事故の被害者・加害者にならないように、この年代に向けた自転車教育は重要であると考えています。そこで今年、Honda では中学生・高校生向けの自転車教育用教材を作成し、希望者が自由に活用できるように、ホームページからダウンロード（無料）できるようにしました。教材は、中学・高校の教職員や、地域の交通安全指導者が、自転車教育を実施するときに役立つ「自転車教育指導マニュアル」と、指導時に使用する「ワークシート」で構成。中学生・高校生の自転車事故をもとに、生徒自身が交通安全について考える内容になっています。

高知県津野町立葉山中学校では、担任の先生がこの教材を活用し、2 年生を対象に交通安全の授業を行いました。「無灯火による自転車事故」を題材にしたワークシートをもとに、「事故がなぜ起きたのか」「そのときの自転車利用者の心理状態」「後々どんな影響が出るか」、生徒同士で話し合うことで、無灯火運転に潜む危険について理解を深め、交通ルールを守ることの重要性を再確認しました。指導を行った先生からは、「交通ルールを違反した場合の危険や、加害者となってしまった場合の賠償責任などについて理解してもらうのに効果的であった」と評価を得ています。

高知県津野町立葉山中学校の 2 年生を対象に行われた交通安全の授業。生徒たちは自分の考えをワークシートに記入し（写真上）、それをもとにグループで話し合った（写真下）

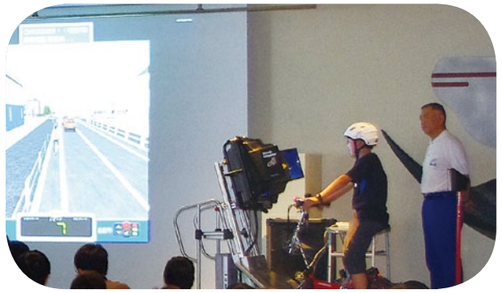
ホンダ　高校生　検索

以下のホームページからダウンロード可能。
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/junior/

自転車乗用中の危険を安全に体験する

地区普及ブロックでは、自治体や警察などの要請に対応し、「Honda 自転車シミュレーター（P27 参照）」による自転車教室を全国各地の中学・高校の生徒を対象に開催しています。埼玉普及ブロックでは、千葉県立柏中央高等学校や筑波大学附属駒場中学校で実施。自転車シミュレーターによる危険運転の体験を通じて、どのような運転が安全かを考えてもらうことが目的です。代表生徒が自転車シミュレーターを体験し、その映像をほかの生徒全員で見た後、再生機能を使って、走行状況を様々な視点から振り返ります。生徒の気づきを促すことで、行動変容に導くことができると、中学・高校の先生方に好評です。

また、財団法人兵庫県交通安全協会は、この自転車シミュレーターを導入。同協会の交通安全指導員が鈴鹿普及ブロックより指導ノウハウに関する研修を受け、今年度から兵庫県内の中学・高校での自転車教育に活用しています。「公道ではできない危険場面の体験ができるので効果的」など、交通安全指導員の評価を得ています。このほかにも警察や自治体、教習所で導入・活用が進んでいます。



筑波大学附属駒場中学校で実施された自転車シミュレーターを活用した自転車教室（埼玉普及ブロック）

財団法人兵庫県交通安全協会の交通安全指導員による自転車教室

「走る・曲がる・止まる」の基本を身につける

高校生・大学生では、移動手段に新しく二輪車・四輪車が加わってきます。全国 7 ヵ所にある Honda の交通教育センター（P22 参照）では、高校生・大学生を対象に二輪車・四輪車の実技トレーニングを実施しています。この年代では、経験不足による判断ミスが原因で事故を引き起こすことがあります。そのため、無理な運転はせず、安全に走行することや危険を予測することの重要性を伝え、「走る・曲がる・止まる」の基本を身につけてもらうことを目的としています。アクティブセーフティトレーニングパークもてぎでは、栃木県立真岡工業高等学校の生徒を対象に、原付安全運転講習を行いました。「ブレーキング」や「スラローム」などの実技に加え、動画 KYT（P27 参照）を使って危険予測能力の向上を図っています。鈴鹿サーキット交通教育センターでは、大阪産業大学の学生に四輪車の安全運転講習を実施。急ブレーキによる ABS※や、すべりやすい路面での走行などを体験しました。危険を安全に体験することで、安全運転につなげてもらうことをめざしています。また、熊本普及ブロックは熊本県二輪車安全普及協会が高校生を対象に開催した安全運転講習会「グッドライダーミーティング」に協力。熊本県内の 4 ヵ所の高校で原付通学している生徒に、インストラクターが Honda ライディングトレーナー（P27 参照）による危険予測トレーニングを行いました。

熊本県二輪車安全普及協会「グッドライダーミーティング」では、受講者が Honda ライディングトレーナーによる危険予測トレーニングを行った（熊本普及ブロック）

インストラクターが交換時期の部品を見せながら日常点検のポイントを伝えた（熊本普及ブロック）

※ ABS =アンチロック・ブレーキシステム：急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止して車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする装置

運転者
（一般+指導者）

安全運転に役立つ知識と技術を届けるために

Hondaの交通教育センターでは運転者の方々に、より安全について理解を深めていただくため、参加体験型の実践教育を主体とした様々な安全運転教育を提供しています。また販売会社では、お客様や地域の方々との関わりを大切にしながら、手渡しで安全をお伝えする活動を展開しています。

高度な安全教育を提供する「交通教育センター」

全国7カ所にあるHondaの交通教育センター（P22参照）では、社内外の指導者養成や、企業、学校、個人のお客様を中心に安全運転教育を行っています。今年は約6万人（10月末現在）の方にご利用いただきました。

個人のお客様向けには、Hondaモーターサイクリスト・スクール（二輪）やHondaドライビング・スクール（四輪）を開催。クルマやバイクの魅力を実感していただきながら、楽しく安全知識を身につけられる様々なコースを用意し、お客様のスキルやニーズに合わせて提供しています。

企業向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムを、オーダーメイドで提供しています。職場の安全指導者や運転経験の少ない新入社員への研修、多発事故防止に対応した研修など、企業のリスクマネジメントに幅広くご活用いただいています。特に、近年は環境に配慮した「セーフティ・エコドライブ研修」や、事故を未然に防ぐために危険予測能力を高める「Honda動画KYT」（P27参照）研修が注目を集めています。交通教育センターレインボー浜名湖では、今年から静岡県全域の市町に対する動画KYTの出張講座を開始しており、好評をいただいています。昨年開発された教育プログラム「感情コントロール」※1もすでに多くの企業研修で導入されています。

名古屋市主催「ヤング・ドライバーズ・クリニックin鈴鹿」
（鈴鹿サーキット交通教育センター）

静岡県全域市町に対する「Honda動画KYT」出張講座
（交通教育センターレインボー浜名湖）

他にも、企業や諸団体の交通安全推進担当者様の情報交換の場も提供しており、埼玉県では、交通教育センターレインボー埼玉・和光主催の「2011 トラフィック・セーフティ・フォーラムin埼玉」を開催し、290名の方にご参加いただきました。さらに、全国4ヵ所で交通教育センター主催の安全運転セミナーが開催されました。その一つであるアクティブセーフティトレーニングパークもてぎでは、「社内でできる安全運転指導」をテーマに、事故削減に役立つ指導法の体験会を実施。職場の安全活動に活かそうと、体験会は盛り上がりました。

「2011 トラフィック・セーフティ・フォーラムin埼玉」
（交通教育センターレインボー埼玉・和光）

手渡しで安全を伝える「販売会社」

二輪・四輪・汎用販売会社では、お客様との触れ合いを大切にしながら、手渡しの安全活動に取り組んでいます。安全運転に関するHondaの社内資格※2を取得したスタッフが中心となって、店頭やイベントなどで安全アドバイスを行っています。販売会社は、安全ミニ講習会やドライビングスクール、ツーリングイベントを開催するなど独自に活動を展開しています。Honda Cars埼玉中では、6拠点合同でドライビングスクールを開催しました。お客様にABS体験や縦列駐車など安全運転の実技アドバイスを行ったほか、エコドライブの座学講習を実施し、安全と環境について考えていただく機会を提供しました。また、Honda Dream九州では1泊バイクツーリングが開催され、九州各店舗を出発したツーリング隊約200名が長崎県雲仙に集結。バイクの安全アドバイスのほか、Honda交通安全かるたを使ったイベントなどを実施し盛況でした。

また毎年春と秋、「全国交通安全運動」（主催：内閣府ほか）にあわせて、オールHonda※3で、「セーフティキャンペーン」を開催しており、販売店スタッフ全員が「交通安全啓発リボン」を付けて自ら交通安全を実践するとともに、各販売拠点で「キャンペーンのぼり」の掲示や「交通安全啓発ツール」の配布を行い、広く交通安全を訴求しています。秋のセーフティキャンペーンでは、東京都のHonda四輪販売会社が合同で、東京都内全域約110店舗の販売店スタッフ（延べ約660名）が各販売拠点の最寄りの交差点や横断歩道において交通安全街頭活動を実施。各地区の交通安全協会と連携した活動も行われ、お客様や地域の交通安全に貢献する取り組みは広がっています。

お客様へ直接、安全運転のアドバイスを行うドライビングスクール
（Honda Cars埼玉中）

秋のセーフティキャンペーンでは、東京都内の各販売店が最寄りの交差点や横断歩道において交通安全街頭活動を実施（東京都ホンダ会※4）

※1　運転中のネガティブな感情（焦り・怒り）とドライバーが運転時に自己コントロールして安全運転に結びつけていくかを心理学的に検証するプログラム

※2　Hondaの社内資格には、お客様に店頭などでアドバイスができる「セーフティコーディネーター」、安全講習会の企画立案、開催の実施指導ができる「チーフセーフティコーディネーター」、お客様の安全で楽しいモーターサイクルライフをサポートする「ライディングアドバイザー」、モンパルの安全な乗り方や正しい取り扱いなどについてアドバイスできる「モンパル安全運転指導員」などがある。

※3　Hondaの全事業所・各部門、交通教育センター、四輪販売会社、二輪販売会社（Honda Dream）、汎用販売会社、ホンダ輸送グループ。

※4　東京都内にあるHonda四輪販売会社で構成する組織

高齢者

様々な交通場面で安全な行動選択をしてもらうために

高齢者の方々には、自身の身体機能の低下を自覚してもらうとともに、意識と行動のずれを少なくするための教育が必要であると考えています。Honda は高齢者の方々に、安全にいきいきと交通社会へ参加していただくため、交通安全知識の提供や自発的な改善へと導く交通安全教育の普及に努めています。

安全な歩行につなげるための教材を開発

高齢者の交通事故死者数の約半数は歩行中に事故に遭っており、事故死者数低減に向けては高齢の歩行者の教育が重要となります。そこで今年、Honda は高齢の歩行者・自転車利用者向けの交通安全教育プログラム「交通安全ビデオ講座※」「シルバー楽集（がくしゅう）大学」を開発しました。

「交通安全ビデオ講座」は歩行者・自転車利用者が対象で、受講者がビデオに撮影された交通状況（歩行者や自転車利用者、クルマの動き）を観察して、その感想や意見を交換し、日頃の自分の行動を振り返るというものです。自らの良いところや問題点を見つけ出し（気づき）、問題点に対しては自らの力で正しい答えを見つけ出す（解決）ことをめざしています。今年 9 月、鈴鹿普及ブロックでは、高知県警察本部が主催する「高齢者交通安全ふれあいフェスタ 2011 in Kochi」で、参加した高齢者 112 名を対象に「交通安全ビデオ講座」を活用した講習を行いました。

「シルバー楽集大学」は歩行中・自転車乗用中・自動車乗車中の各場面で、高齢者自身の安全を守るためのポイントをわかりやすく紹介した教材。紙芝居形式になっているため、プロジェクターやパソコンが使えない場所でも指導が可能です。熊本県では交通安全教育講習員が交通安全教室で、この「シルバー楽集大学」を活用しています。

高知県警察本部主催「高齢者交通安全ふれあいフェスタ 2011 in Kochi」での「交通安全ビデオ講座」（鈴鹿普及ブロック）

熊本県交通安全教育講習員による「シルバー楽集大学」を活用した交通安全教室

※監修:太田博雄・東北工業大学教授

地域に広がる Honda の教育手法

高齢者の歩行者・自転車用の交通安全教育プログラム「あやとりぃ 長寿編」（P27 参照）も、地域の指導者へ広がりを見せています。「あやとりぃ 長寿編」は、安全な歩き方や自転車の乗り方、反射材を身につけることの重要性などをわかりやすく伝えるためのものです。今年 2 月、栃木普及ブロックでは、秋田県警察本部主催の交通安全教育隊研修会で、「あやとりぃ 長寿編」の普及を行いました。道路の斜め横断の危険性や、昼間と夜間のドライバーからの視認性の違いなどの教育手法を伝えました。

また、各地区普及ブロックでは、高齢者の自転車事故防止のため「Honda 自転車シミュレーター」を活用した交通安全教室を実施しています。浜松普及ブロックでは、福井県大野市・鯖江市などの市役所と連携し、高齢者に自転車乗用中の危険予測の重要性について理解していただきました。

秋田県警察本部主催の交通安全教育隊研修会で「あやとりぃ 長寿編」を普及（栃木普及ブロック）

福井県大野市主催の「Honda 自転車シミュレーター」を活用した高齢者向け交通安全教室（浜松普及ブロック）

高齢ドライバー・ライダーへの安全運転教育

一般社団法人日本自動車工業会が開発した高齢者向け交通安全プログラム「いきいき運転講座」の普及にも努めています。これは主にドライバー向けですが、運転免許を持っていない高齢者にも対応しています。交通安全トレーニングと、脳の働きを高める「脳トレ」を組み合わせたプログラムで、仲間と一緒に話し合いながら、交通安全力を高めていくのが特長です。今年 9 月、浜松普及ブロックでは、徳島県警察本部に集まった 140 名の地域指導員を対象に「いきいき運転講座」を実施しました。他の地区普及ブロックでも、自治体、警察、地域と連携して、このプログラムを実践できる指導者を養成し、教育の輪を広げていく活動を展開しています。

実車を使った教育としては交通教育センターで、少人数制教育プログラム「Honda 健康ドライブスクール※」を実施しています。

この他、熊本普及ブロックは熊本県二輪車安全普及協会が高齢者を対象に開催した安全運転講習会「グッドライダーミーティング」に協力。参加した高齢ライダー 21 名を対象に、インストラクターが Honda ライディングトレーナー（P27 参照）による危険予測トレーニングを行いました。

※東北工業大学の太田博雄教授らが公益財団法人国際交通安全学会などで研究成果を報告している「自己観察法」の手法を取り入れている。自分の運転を録画して観察し、「我が身振り見て、我が振り直す」手法。

徳島県警察本部で地域指導員を対象に行った「いきいき運転講座」（浜松普及ブロック）

熊本県二輪車安全普及協会「グッドライダーミーティング」では、受講者が Honda ライディングトレーナーによる危険予測トレーニングを行った（熊本普及ブロック）

普及活動の連携強化 ❶自動車教習所との連携

交通安全の輪を全国に広げ、定着させるために

自動車教習所は運転免許取得のための教育の場としてだけでなく、地域での交通安全教育を実践する場としても期待されています。同じ志を持つ自動車教習所に対し、Honda は教育プログラム・教材や指導者のレベルアップ教育の提供などを通じて、各地の自動車教習所が主体的に取り組む交通安全活動をサポートしています。

自動車教習所の自主的な活動をサポート

Honda は、地域において交通安全教育に積極的に取り組んでいる自動車教習所との連携を通じて、交通安全の輪を全国に広げ、定着させるための活動をサポートしています。現在、16 都道府県 36 校の自動車教習所と提携し、活動を推進しています(右下図参照)。

今年は、北海道ホンダ販売㈱との共催で毎年開催されているツーリングイベントにあわせて、安全運転実技講習会を開催しました。本講習会に先立ち、連携教習所の麻生自動車学校、苫小牧中野自動車学校、苫小牧ドライビングスクールの指導員に対し、二輪車安全運転指導者養成研修会を実施。講習会では地域の教習所指導員がインストラクターを担当したほか、今後、北海道で各教習所が自主的に講習会を開催できる基盤を整えました。

また、富山県では富山自動車学校と富山県ホンダ会※が連携し、地域の方々に交通安全への理解を深めてもらうため、「セーフティ・フェスティバル in 富山」を開催。富山自動車学校からは、「自動車教習所は地域の交通安全教育センターとしての役割が求められています。連携することでイベント内容が充実し、お互いの指導力の向上にもつながる」と評価の声をいただいています。Honda ではこうした取り組みを来年以降も継続したいと考えています。

他にも、青森モータースクールなどでは Honda 自転車シミュレーターを導入し、地元の高校生への自転車教育を積極的に行っています。また、教習所職員の方々に Honda の交通教育センターでのお客様対応などを紹介する「マインドウェア向上研修」を昨年からスタートしており、連携先の自動車教習所にご利用いただいています。

二輪車安全運転講習会 in 留萌市礼受牧場
(麻生自動車学校、苫小牧中野自動車学校、苫小牧ドライビングスクール)

セーフティ・フェスティバル in 富山(富山自動車学校)

※富山県内にある Honda の四輪販売会社で構成する組織

普及活動の連携強化 ❷関係諸団体との連携

関係団体と連携した活動の拡大

交通安全活動をされている関係諸団体や業界の方々とも、積極的に連携しながら活動の拡大に取り組んでいます。

業界活動などへの積極的な協力

全国の自動車教習所教習指導員の皆様の自己研鑽への動機づけや交流の場をご提供することを目的として、2001 年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」は今年 11 回目を迎えました。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国 79 校 134 名の教習指導員の皆様が 2 日間にわたり競技に取り組みました。

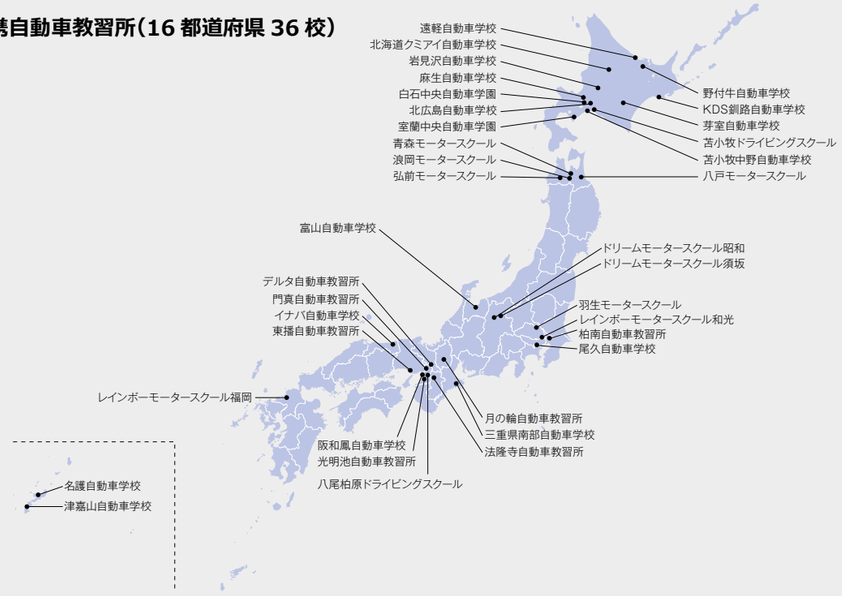
二輪車では財団法人全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会が主催する「第 44 回二輪車安全運転全国大会」での審判業務などのほか、社団法人全国二輪車安全普及協会が展開する参加体験型の安全運転講習会「グッドライダーミーティング」の指導などに協力しました。

また、一般社団法人日本自動車工業会の一員として春と秋の「全国交通安全運動」にも協力しています。

第 11 回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技

第 44 回二輪車安全運転全国大会の審判業務などで協力

■ 連携自動車教習所(16 都道府県 36 校)



ソフトウェアの開発

これまでのノウハウをもとに先進性・独自性のある教育プログラムを提供する

Honda は二輪・四輪のシミュレーターの開発で培った独自の技術を活かして、安全運転教育の効果を高めるためのソフトウェアを開発しています。また、研究団体などと連携して、時代のニーズに合った教育プログラムづくりにも取り組んでいます。これまでに蓄積したノウハウをもとに、安全運転教育の新たな価値を提供していきたいと考えています。

シミュレーター技術を活用した新たなソフト開発

脳梗塞など脳血管障害となった方々は全国で約 130 万人と言われています。そして、こうした方々の中には社会復帰後に、クルマの運転を希望されている方がたくさんいます。しかし、クルマの運転を再開できるかどうかの明確な基準は存在しないため、担当の医師や作業療法士の方々がその判断に苦慮しています。そこで現在、Honda では、四輪運転者用のドライビングシミュレーターの技術を活用して、リハビリ患者の方の運転可否の判断をサポートするためのシステムの開発にチャレンジしています。

現在、東京都リハビリテーション病院などの協力を得て効果検証中で、担当する医師は「患者様が回復後に運転して問題がないかを客観的に判断するための重要なツールとして期待しています。こうしたシステムがあることで、患者様のリハビリに取り組むモチベーション向上にもつながります」と評価しています。このシステムによって、医師や作業療法士へ一定の判断基準を提供し、「もう一度クルマを運転したい」と希望する患者の方を支援していきたいと考えています。

リハビリ患者の方の運転可否判断をサポートするためのシステムを東京都リハビリテーション病院などで検証

効果的な自転車教育プログラムの開発に協力

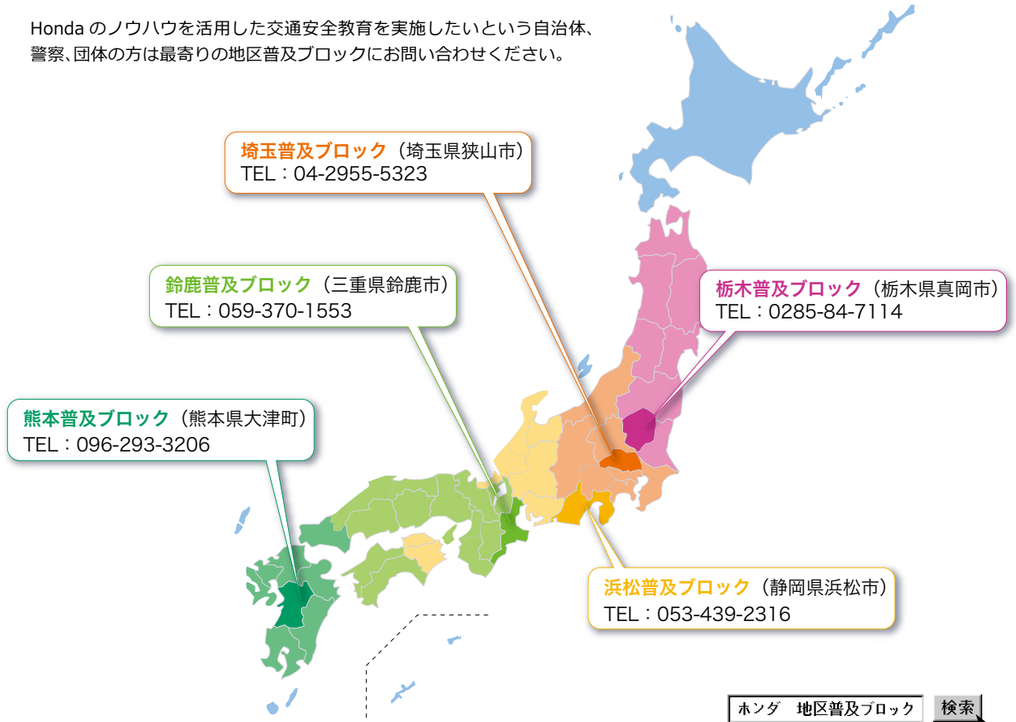
公益財団法人 国際交通安全学会の研究プロジェクトの 1 つである「子どもから高齢者までの自転車利用者の心理行動特性を踏まえた安全対策の研究」に、Honda は協力しています。このプロジェクトでは、まず中学校 2 校の協力を得て、この年代に固有の心理特性・行動特性などを明らかにし、「平成 22 年度国際交通安全学会研究調査報告会」で発表、自転車総合対策の必要性を提唱しました。この結果を踏まえながら、効果的な自転車教育プログラムの開発を進め、教育の現場に導入していくことをめざしています。

公益財団法人 国際交通安全学会の研究プロジェクトの一環として、三重県鈴鹿市内の中学校に協力を得て生徒の行動調査などを実施した

■ 安全運転普及活動拠点

地区普及ブロック　所在地と担当都道府県

Honda のノウハウを活用した交通安全教育を実施したいという自治体、警察、団体の方は最寄りの地区普及ブロックにお問い合わせください。



ホンダ　地区普及ブロック　検索

http://www.honda.co.jp/safetyinfo/area/

地域の交通安全活動をあらゆる面から牽引

地域による主体的な交通安全教育を継続してくためには、その地域で活動している指導者の役割がたいへん重要になってきます。地区普及ブロックは自ら教育機会を提供するだけでなく、地域の指導者を様々な形でサポートしています。

指導者がお互いのノウハウを共有できる場を提供

地区普及ブロックでは地域の指導者に、Honda の交通安全教育プログラムや教材を提供し、その活用方法をお伝えしています。さらに、こうした Honda の交通安全教育に共感していただいている地域の指導者が情報交換できる機会を設けています。

今年 3 月には三重県、滋賀県、兵庫県、岡山県、8 月には熊本県と宮崎県の指導者による情報交換会を開催しました。この情報交換会では、指導者に子どもや高齢者を対象にした指導の実演をしていただき、お互いが持っているノウハウを共有できるようにしています。参加者からは「自分の担当する地区以外の指導方法は、なかなか知ることができなかったので、良い機会になった」「定期的にこうした機会をつくってほしい」という声をいただいています。今後も、このような取り組みを他の地域でも展開していきたいと考えています。

三重県鈴鹿市で開催された「東海・近畿・中国地区情報交換会」（鈴鹿普及ブロック）

「熊本県交通安全教育講習員・宮崎県交通安全指導員情報交換会」（熊本普及ブロック）

■ 安全運転普及活動拠点

交通教育センター

Ⓐ **アクティブセーフティトレーニングパークもてぎ**
（活動開始：1997 年）TEL.0285-64-0100

Ⓑ **交通教育センターレインボー埼玉**
（活動開始：1980 年）TEL.049-297-4111

Ⓒ **交通教育センターレインボー和光**
（活動開始：1997 年）TEL.048-461-1101

Ⓓ **交通教育センターレインボー浜名湖**
（活動開始：2002 年）TEL.053-527-1131

Ⓔ **鈴鹿サーキット交通教育センター**
（活動開始：1964 年）TEL.059-378-0387

Ⓕ **交通教育センターレインボー福岡**
（活動開始：1973 年）TEL.092-963-1421

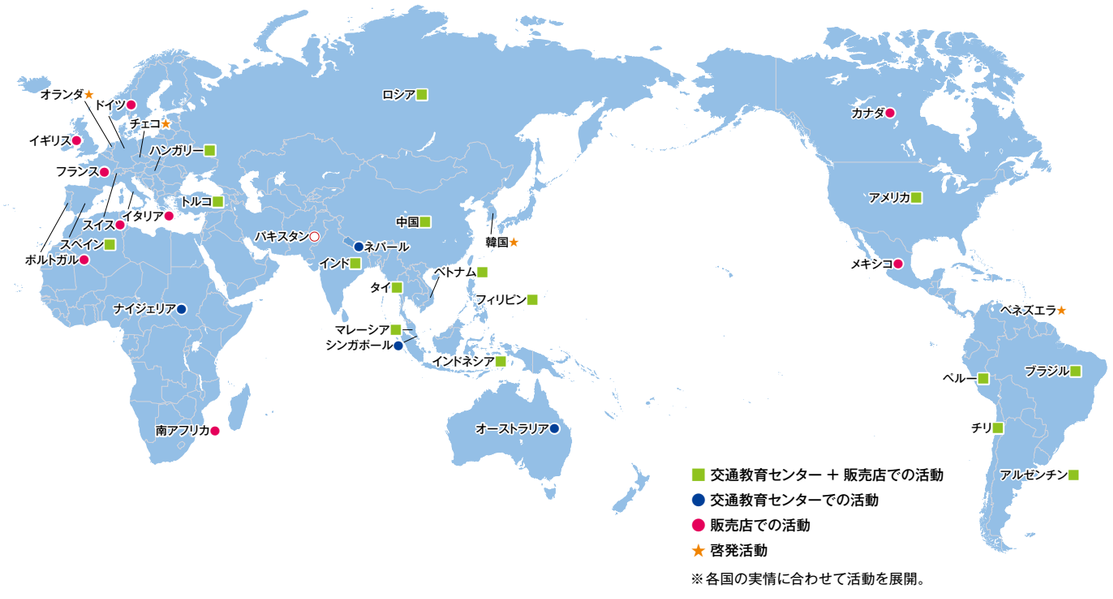
Ⓖ **交通教育センターレインボー熊本**
（活動開始：1989 年）TEL.096-293-1370

交通教育センター	
センター数	7
指導者数	97 名
四輪研修車両	266 台
二輪研修車両	502 台
自動車教習所（Hondaグループ）	
教習所数	2
指導者数	138 名
四輪教習車両	140 台
二輪教習車両	109 台

ホンダ　交通教育センター　検索
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/center/

海外拠点

海外でのお客様や地域社会へ交通安全を伝える活動は、Honda の現地法人・関係拠点が主体となって展開し、世界 36 カ国で活動しています。（日本を除く）



※各国の実情に合わせて活動を展開。

交通教育センターが提供する安全運転教育プログラム

Honda の交通教育センターでは、社内外の指導者養成や、企業、学校、個人のお客様を中心に安全運転教育を行っています。個人のお客様向けには、クルマやバイクの魅力を実感いただきながら、楽しく安全運転の知識を身につけていただける様々なコースを用意しています。

HMS（Honda モーターサイクリスト・スクール）

HMS は、車両の取り回しや運転姿勢、ライディングの基本である「走る・曲がる・止まる」を身につけていただく参加体験型のスクールです。専門のインストラクターが安全運転のポイントをアドバイスし、運転技術とともに安全意識を高めることができます。

HDS（Honda ドライビング・スクール）

HDS は、日頃の安全運転に役立つ知識や技術を身につけていただく参加体験型のスクールです。運転に自信がない方には基本から丁寧にアドバイス。もっと運転を楽しみたい方も、Honda の先進設備で危険を安全に体験する運転トレーニングが行えます。

親子でバイクを楽しむ会

バイクに乗る体験を親子で共有することで、親子の絆を深めていただくためのスクールです。お父さん、お母さんが先生になって、バイクの操作方法や楽しさ、交通ルールやマナーの大切さをお子様に伝えます。ご家族のコミュニケーションづくりにも最適です。

企業向け安全運転研修

各企業の実情に合わせた交通安全教育を提供しています。これまでに 1500 社を超える企業様の交通安全対策をサポートしています。安全運転研修に参加された企業様は、その後の実績や調査から、事故の減少効果が確かめられています。

活動事例

海外では、販売店でのお客様への安全啓発や、交通教育センターでの実践教育、地域の方々を対象とした生涯教育など、政府や関係団体と連携しながら各国の交通事情に即した活動が様々な形で展開されています。

ベトナム

Honda Vietnam では、販売店や交通教育センターでの運転者教育の他、主要都市の小学校の先生を対象に、子ども向け教育プログラムの指導者養成を展開。交通安全の輪が広がっています。

ライディングトレーナーを活用した、販売店でのお客様向け二輪安全講習会の様子

学校教諭向け研修会の様子

インド

Honda Motorcycle & Scooter India では、販売店のインストラクターが中心となり、様々な会場で小学生から一般ライダーまでを対象に交通安全教育を展開しています。

子ども向け交通安全教室の様子

学生向けの二輪実技講習会の様子

資料編

2011年安全運転普及活動動員数 (2011年1月～12月末見込み)

◆ Hondaグループ活動

	指導者	参加者
地域普及活動		
あやとりぃシリーズ	2,134	9,023
自動車シミュレーター教育	825	27,007
いきいき運転講座	602	1,904
その他のイベント	421	12,835
交通教育センター		
企業向け四輪講習	3,603	27,757
企業向け二輪講習	1,356	7,239
個人向け四輪講習	—	2,297
個人向け二輪講習	—	19,458
その他	4	17,088
販売会社		
安全運転講習会	—	18,931
Hondaグループ活動 合計	**8,945**	**143,539**
総合計		**152,484**

◆ 地域連携活動

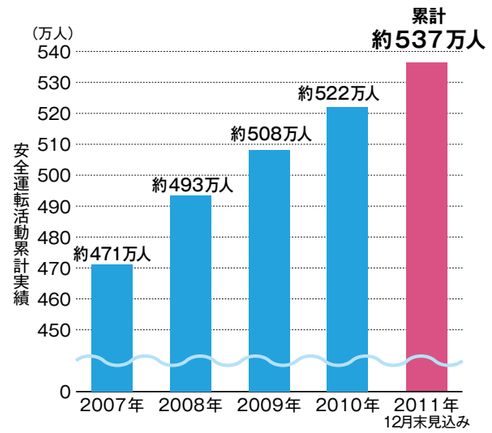
	指導者	参加者
地域普及活動	30	370,418
教習所	—	83,024
その他イベント	—	21,453
地域連携活動 合計	**30**	**474.895**
総合計		**474,925**

◆ 海外 (シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナムなど主要活動国10カ国での実績)

	参加者
安全運転普及活動	3,230,000
海外合計	**3,230,000**

2011年安全運転普及活動動員数累計

(Hondaグループ活動、1970～2011年12月末見込み)



安全運転普及活動一覧

活動の場			活動内容	指導者	主な対象 子ども	学生	一般・指導者	高齢者
国内	販売会社 四輪	レインボーディーラー制度※1	店頭安全アドバイス／安全ミニ講習会／ドライビングスクール／地域の交通安全活動協力	セーフティコーディネーター／チーフセーフティコーディネーター		●	●	●
国内	販売会社 二輪	セーフティサポートディーラー制度※2	店頭安全アドバイス／ライディングスクール／地域の交通安全活動協力	ライディングアドバイザー／スポーツライディングスクールインストラクター		●	●	●
国内	販売会社 汎用		店頭安全アドバイス	モンバル安全運転インストラクター／モンバル安全運転指導員				●
国内	交通教育センター		運転者、指導者研修／二輪・四輪販売拠点研修／一般ライダー、ドライバースクール／指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会／各年代別講習	交通教育センターインストラクター	●	●	●	●
国内	地区普及ブロック		地域の交通安全活動協力／指導者養成協力	安全運転インストラクター	●	●		●
国内	Honda事業所		従業員への交通安全指導／地域の安全運転指導	安全運転インストラクター			●	
国内	Honda関連会社		地域の交通安全活動協力	Hondaパートナーシップインストラクター	●	●	●	●
国内	自動車教習所との連携		地域の交通安全活動協力／二輪・四輪スクール	教習指導員	●	●	●	●
国内	業界活動		交通安全キャンペーン／交通安全教育プログラムの編纂／指導者養成協力		●	●	●	●
海外	現地法人	販売拠点（四輪・二輪）	店頭安全アドバイス／ドライビングスクール／ライディングスクール／地域の交通安全活動協力	販売拠点インストラクター	●	●	●	●
海外	現地法人	交通教育センター	指導者研修／二輪・四輪販売拠点研修／一般ライダー、ドライバースクール／ドライビング・ライディングシミュレーターによるトレーニング／地域の交通安全活動協力／運転免許取得講習／指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会	交通教育センターインストラクター	●	●	●	●

※1 レインボーディーラー制度：Hondaの安全に関する認定基準を満たした四輪販売拠点。
※2 セーフティサポートディーラー制度：Hondaの安全に関する認定基準を満たした二輪販売拠点。

情報公開

■ ホームページや情報紙を通じた情報発信

ホームページ「Hondaの交通安全」では、安全運転に役立つ情報を発信。安全運転やエコドライブのポイントをはじめ、お子様や高齢者の方々に交通事故にあわないようにしていただくためのアドバイスを紹介しています。

サイトはバラエティに富んだ内容となっており、イラストや動画で分かりやすく交通安全について学べる「危険予測トレーニング(KYT)」、親子で遊びながら学べる「交通安全ゲーム」のほか、「事故事例から学ぶ、自転車の危険走行」をはじめとした冊子や指導者向け教材などがダウンロードできるようになっています。学校や地域の交通安全教室でぜひご活用ください。

また、1971 年より発行している Hondaの交通安全情報紙「Sj」を通じても、指導者の方に役立てていただける情報提供を行っています。

ホンダ　交通安全　検索

http://www.honda.co.jp/safetyinfo/

動画で交通場面のケーススタディを通じて、「交通センス＝危険予測能力」を身につける「危険予測トレーニング」

交通安全を楽しみながら身につけられる「Hondaの交通安全ゲーム」

ホームページ「Hondaの交通安全」。初心運転者、子ども、高齢者、女性など、幅広い方々に対応したコンテンツを用意

交通安全情報紙「Sj」

■ その他 Honda の主な情報公開

Honda の「業績」や「CSR」「環境保全活動」「社会活動」については、下記の冊子およびホームページ で情報を開示しています。

CSR レポート

Hondaの2010年度の企業の社会的責任(CSR)をはたすための主な活動を、年次性の高い情報を中心にまとめた報告書。2011 年 7 月発行

http://www.honda.co.jp/csr/

環境年次レポート

Hondaの環境への取り組みの考え方と 2010 年度のおもな実績および今後の目標をまとめた報告書。2011 年 6 月発行

http://www.honda.co.jp/environment/publications/index.html/

アニュアルレポート

Hondaの 2010 年度の業績概要をまとめた報告書。2011 年 7 月発行

http://www.honda.co.jp/investors/annualreport/2010/

Honda の社会活動 Web サイト

Hondaの社会活動の考え方や幅広い活動内容を紹介する Web サイト。

http://www.honda.co.jp/philanthropy/

資料編

安全運転普及本部　この１年の主な歩み

2010年

12月
- ■麻生自動車学校にて「マインドウェア向上研修」を実施（北海道、12/14）

2011年

1月
- ■静岡県警察学校にて二輪車研修（静岡県、1/13～14,20）
- ■ Honda Motor China（HMC）が香港最大規模の自動車教習所にて、教官向け二輪車安全運転研修会を実施
- ■シンガポール交通教育センター（SSDC）がガーナにて、VIP 車両先導二輪車を運転する警察・軍関係者に技能強化トレーニングを実施

2月
- ■全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 17 回研究大会 in 長崎にて「Honda セーフティナビ」を展示（長崎県、2/18～19）
- ■豊橋創造大学幼児教育課の学生に向けた研修を実施（愛知県、2/8,10）
- ■ Honda Manufacturing Nigeria（HMN）が、ナイジェリアで初となるバイクタクシー向け安全運転講習会を開催

3月
- ■「交通安全体験セミナー 2011」開催（大阪府、3/3）
- ■「中学生・高校生への自転車教育指導マニュアル」&「事故事例から学ぶ自転車の危険走行」発行
- ■高齢の歩行者・自転車利用者向けの交通安全教育プログラム「交通安全ビデオ講座」作成
- ■高齢者向けの交通安全教材「シルバー楽集大学」作成

4月
- ■「Honda 春のセーフティキャンペーン」開催（4/28～5/31）

5月
- ■ Honda Cars 埼玉中が 6 拠点合同でドライビングスクールを開催（埼玉県、5/24）
- ■二輪車安全運転推進委員会特別指導員審査協力（三重県、5/26～27）

6月
- ■「第 11 回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」開催（三重県、6/2～3）
- ■山梨県高等学校生徒指導主事研究協議会にて「高校の安全教育～原付安全指導について」講話（山梨県、6/21）
- ■麻生自動車学校、苫小牧中野自動車学校、苫小牧ドライビングスクールの教習指導員を対象に二輪車実技指導者養成研修を実施（北海道、6/22～23）

7月
- ■鈴鹿８耐バイクイベント、チームマリと共同開催（三重県、7/30～31）
- ■北海道 Honda 販売と地元自動車教習所との合同で二輪車実技講習会を実施（北海道、7/17）
- ■静岡県全域市町に対して「Honda 動画 KYT」出張講座スタート（静岡県）

8月
- ■「ASIMO と一緒に親子で学ぼう！交通安全教室」開催（東京都、8/2～3）
- ■「第 44 回二輪車安全運転全国大会」開催、審判派遣協力（三重県、8/6～7）

9月
- ■「Honda 秋のセーフティ キャンペーン」開催（9/1～30）
- ■ Honda Dream 高知西がライディングスクールを実施（高知県、9/4）
- ■ Honda バルーンフェスティバルにて「親子でバイクを楽しむ会」開催（三重県、9/17～18）
- ■東京都の Honda 四輪販売会社が合同で交通安全街頭活動を実施（東京都、9/23～25）
- ■ Honda Dream 九州合同ツーリングにて「交通安全イベント」開催（鹿児島県、9/24～25）

10月
- ■東北・北海道エリア『交通ボランティア指導員』を対象に、教育ツールの紹介（北海道、10/18）
- ■二推特別指導員中央研修会協力（茨城県、10/24～25）
- ■高齢運転者安全運転継続支援ソフトを「Honda セーフティナビ」に組み込み、実験を実施（10/26～28）

11月
- ■「第１回全国生協安全運転大会」を実施（静岡県、11/19）
- ■タイの「A.P.Honda」向けインストラクターステップアップ研修を実施（埼玉県、11/19～26）
- ■ Bukit Batok Driving Centre（BBDC）が Honda South Africa のインストラクター研修を実施

その他、全国５カ所の地区普及ブロックでは、さまざまな活動を実施しています。

安全運転教育機器 交通安全教育教材

教育効果を高めるため、各年代に応じた教育機器・教材を開発しています。危険を安全に体験できる二輪・四輪・自転車などの各シミュレーターや、各種交通安全教育教材の開発に力を入れています。

ホンダ　交通安全　検索
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/
※各種教材機器・機材に関しては、ホームページで詳しくご紹介しています。

ホームページで体験・ダウンロード可能な教材等

幼児・小学生

あやとりぃ ひよこ編（幼児～小学校低学年対象）
イラストやクイズを通して、交通行動の基本やマナーを楽しみながら学ぶことができる。

あやとりぃ子ども自転車トレーニングマニュアル（幼児～小学校高学年対象）
実際に自転車に乗って安全意識を育てる体験型プログラム。安全を楽しく身につけることができる。

あやとりぃ（小学３～４年生対象）
小学校の授業を想定したプログラム。日常生活を題材に、交通安全を自分自身で考え、気づく能力を養う。

Honda 交通安全かるた
子どもたちに覚えてほしい交通ルールやマナーを 45 種類紹介。かるた遊びを通して、「正しい交通行動」が学べる。

Honda の交通安全ゲーム
親子で遊びながら楽しく交通安全を身につけられるゲーム。

中学・高校・大学生

Honda 自転車シミュレーター
自転車を運転する際に起こりうる危険を安全に体験することで、危険予測能力や安全意識の向上を図る。※小学生～高齢者まですべての世代にご利用いただいております。

Honda ライディングトレーナー
手軽に利用できる二輪車安全運転教育機器として開発。運転診断機能によるアドバイスなど、効果的な安全教育が行える。

交通状況を鋭く読む ～危険予測トレーニング～
運転者が路上で出会う危険を予測する能力を高めるためのトレーニング用教材。

事故事例から学ぶ、自転車の危険走行
実際の事故事例をもとに、自転車に乗る際に知っておくべき交通ルールを学ぶことができる。

中学生・高校生への自転車教育指導マニュアル
実際の事故事例をもとに生徒自らが考えることを主とする指導方法などを紹介。45 分授業を想定したワークシートや指導マニュアル。

運転者（一般・指導者）

Honda ライディングシミュレーター／Honda ドライビングシミュレーター
二輪・四輪運転中に起こりうる危険場面を、実際に近い運転感覚で安全に体験でき、危険に対する認知や判断、理解を深める。

Honda セーフティナビ
「環境」にやさしいエコドライブと「安全」な運転知識を楽しく学習できる。

Honda 動画 KYT
集合教育において、実際の交通状況に近い動画を活用し、認知、判断を伴う危険予測能力を高めるトレーニングができる。

危険予測トレーニング(KYT)
動画で再現した交通場面のケーススタディを通じて、「交通センス＝危険予測能力」を身につけるためのトレーニング。

高齢者

あやとりぃ 長寿編
高齢者対象の歩行者、自転車用の少人数制プログラム。自身の交通行動を振り返り交通安全に対する気づきを促す。

交通安全ビデオ講座
ビデオに撮影された交通状況を観察して、その感想や意見を交換し、日頃の行動を振り返る。
（監修：太田博雄・東北工業大学教授）

シルバー楽集大学
歩行中・自転車乗用中・自動車乗車中の各場面で、高齢者自身の安全を守るためのポイントをわかりやすく紹介した教材。

※ Honda 健康ドライブスクール教材

健康ドライブ読本
高齢ドライバーの運転に関わる身体機能の変化と、それを補う方法など、運転に役立つ情報を習得できる。

シニア向け交通安全啓発シート
体験型コンテンツやクイズ、間違い探しなど、参加者と一緒に話し合いながら学習をすすめられる指導者向け教材。